

JAPAN INTERIOR DESIGN

インテリア

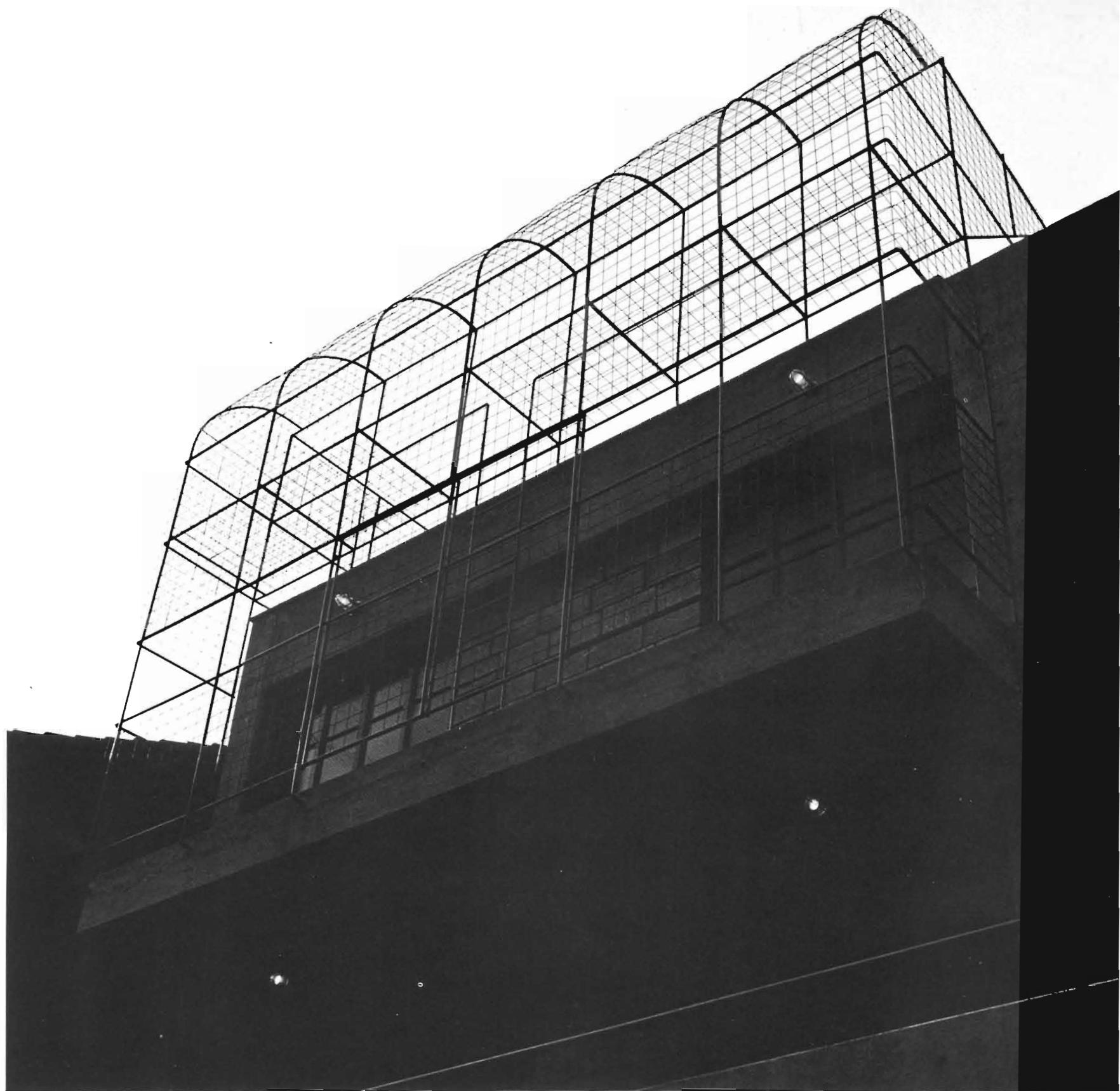
2

no. 239 february 1979

特集 = 都市住宅とインテリア

FEATURE OF THE MONTH = URBAN HOUSING AND INTERIOR





東側外観見上げ

樹木希林の家

東京都港区

設計：黒川哲郎+ハードウェア

施工：(株)渡部建設

THE KIKI HOUSE

Minato-ku, Tokyo

architect: Tetsuro Kurokawa + Hardware

construction: Watabe Kensetsu Co., Ltd

この建物の特異な表情をつくっているのは、建物の東面に屋階までたちあがってつけられたプラントネットである。このプラントネットは手摺りとグリーンエンバイラメントのための装置を兼ねたものだが、コンクリートのファンデーションに対してフィルターとなって、内部に錯視的な世界を展開させているアルミスクリーンと対応している。この建物は、東西2面に北下りの道路をもち、さらに全体が西下りという敷地のため、道路斜線と北側斜線の3種の規制、合わせて6つの傾斜面をはじめからはらんでいた。そこで設計のデザイン的なポイントは、水平、垂直を強調することによって、この斜面に対処していくことにあると考えた。コンクリートブロックとガラスブロックの目地、スチールサッシュの格子、面木の有る無しや、ふかじを加えてつくったコンクリートエッジといったものが、水平、垂直をかたちづくる要素となっている。しかしもっともその効果を高めているのが、19mm筋の格子、6mm 100²の溶接金網でつくったこのプラントネットである。ごく小さなスケールで、水平、垂直を積重ねることによって、斜面は細かくくだかれ、そして頭頂の曲面が、相互のからみを融合させている。

断面構成は、地階が、コンサートルーム・けいこ場、1階はプロダクション事務所、2階はパブリックな居室、3階はプライベートな居室、そして屋階はルームアウトサイドといった明解なワンフロア・ワンファンクションとなっている。

地階は4周の土を無限の厚みをもった壁として感じとれる空間にしたいと思い、敷地の落差を利用して丸窓をとり、自然の光をわずかにもちこんで座標を与えている。この鉄板丸窓は、内側からカーブラグ4本で簡単に取り付けられ、外からはコンクリートに穿かれたただの丸い穴のようにしか感じられないという鉄板加工のサッシュである。黒田アトリエ（都市住宅第8集）以来、5軒の住宅で少しずつ改良を加えて使用してきたが、今回、蝶番に力を伝達しないで開閉できるようハンドルのピンを改造し、さらにメッキしたものを基本的な在庫の仕様とした（“テツマド”）。この地階のトイレの化粧台でつかっているアルポリックの引違い戸は、600²の大きさながら4mm厚でリブもついておらず、見込の差の気になら

らないものになっている。

1階は事務所をはさんで、東側に住宅用の、西側に仕事用のパーキングと玄関が設けられている。東面にはガラスブロックを、西側にはラフワイヤーガラスを使うことによって、仕事場全体が光の滞留する空間となり、東西の道路に空気を通わせている。ガラスブロックの目地は赤いペンがらで、透明度の高い“コロナ”と鏡面効果のある“カット”を併用



西側外観

している。この併用の考え方は、西面でも一列だけに透明ガラスを用いて呼応させている。トイレの鉄板ドアは、薄い板に曲げ加工を加えたものより6mm厚の単純な板に錠前や蝶番をつけてドアにしたててしまおうという発想から生まれたもので、重箱住居（都市住宅・新建築・ジャパンインテリア7608）で玄関ド

アに試みたものである。今回船舶用の面付けの錠前がみつかったことで大変すっきりしたものに近づき、インテリアのドアに使っている。照明は、露出配線に照明器具をできるだけ単純に取付けたいという発想から、鋳鉄性の丸ボックスをそのまま照明器具にしたもので、パーツは他にやはり既製のモーガルソケットとめくらプレートを組み合わせている。

2階はドアがひとつもなく、居間、書斎、食堂、厨房がスクリーンで間仕切られている。このスクリーンはアルミパンチメタルを2mmのガラスでサンドイッチしたもので、部屋を間仕切るといふ感じと、すみずみまでひとつの空間としてとらえようという、相反する要求を満足させている。そして、外光、照明の変化に敏感に反応して錯視的な世界をつくっている。スチールパンチメタルを使った可動スクリーンやエクスパンドメタルを使った軒先ルーバーを、田中邸（ジャパンインテリア7802）で試みたが、穴の細かいものはペンキで穴がつぶれてしまうので、今回はアルミを使っている。窓ガラスはひさし型のワイヤーで、これも結構きれいな光を持ち込んでいるのだが、「輸入品ですか？」と聞く人さえいて、こんなありふれたガラスを手に入れることが、ずいぶんやっかいになってしまったのはどうしたことだろうと考えてしまう。サッシュの金物“グレモン”は、やはり田中邸で既製品を使おうとしたときに馬鹿高いものしか手に入らなかったので板金加工で製作したものである。今回はメカのカバーを鋳物にし、そのパーツだけ在庫し、他のパーツは受注してすぐに加工ができるものにしたので、製品としては在庫せずですますことができる。食器戸棚のタッチラッチの扉は、やはりアルポリックを使ったが、薄いものでそりがでないという点でまあ満足のいく性能があがっている。

3階は、2階とは対比的にコンクリートブロックでがっちりの間仕切っている。そして冒頭で述べたプラントネットが、外部の吹抜けといった感じで垂直の連続感を、内側から感じさせている。

部品を開発し、デザインし、定着させ、そしてそれが新たな空間体験を生み出すためのものとなっていくこと、そこに私は今、一番興味を感じている。

（建築家）



エントランスホール







3階廊下 左は屋上へのステップ





3階個室



3階蔵室

2階書斎を見る



1階事務所入口



屋上庭園とプラントネットを見る

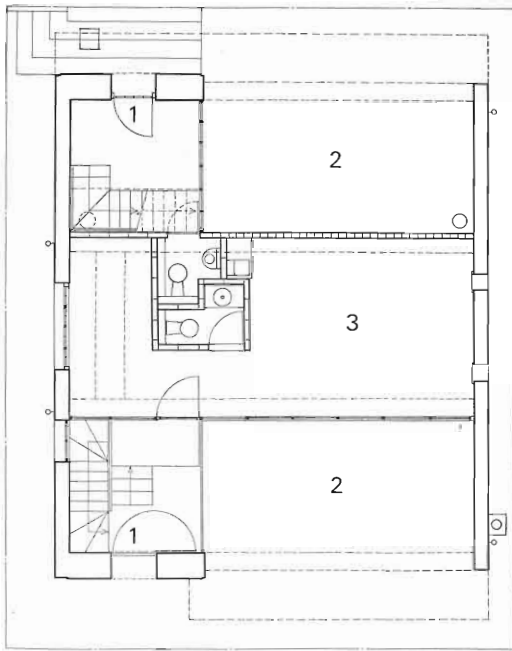


2階居間より書斎を見る

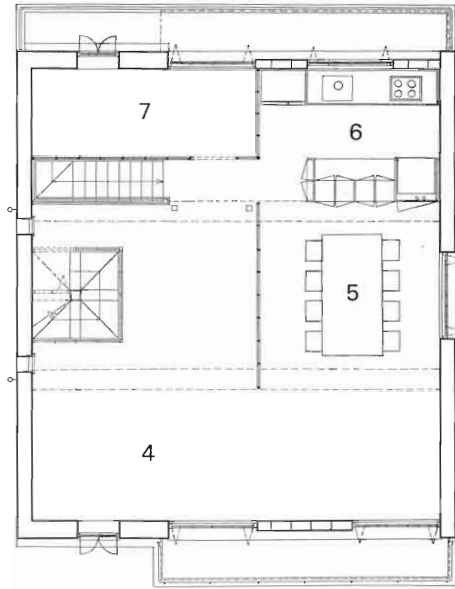


2階居間

1階平面図 1st floor plan



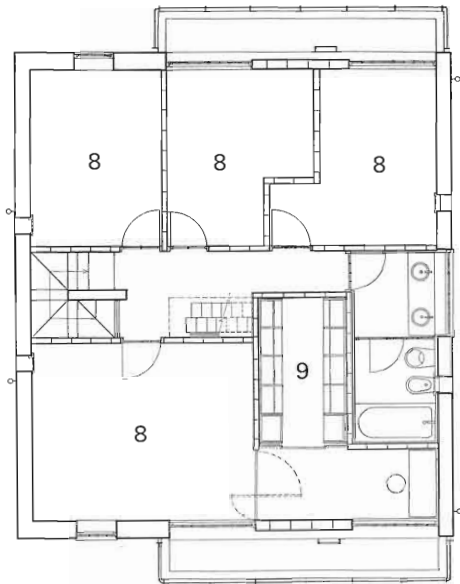
2階平面図 2nd floor plan



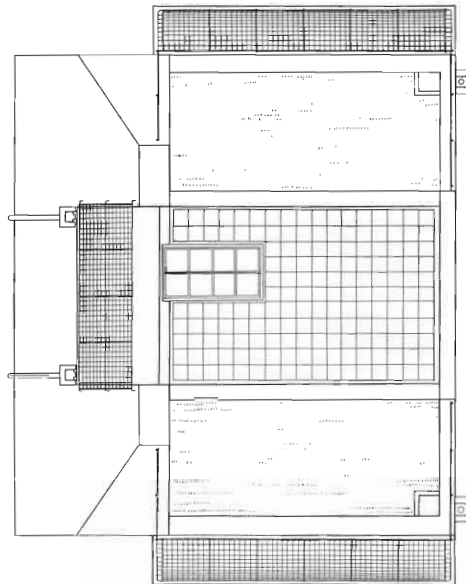
- 1 入口
- 2 ガレージ
- 3 事務所
- 4 居間
- 5 食堂
- 6 厨房
- 7 書斎
- 8 個室
- 9 クローク

- 1 entrance
- 2 garage
- 3 office
- 4 living room
- 5 dining room
- 6 kitchen
- 7 study
- 8 bed room
- 9 cloak

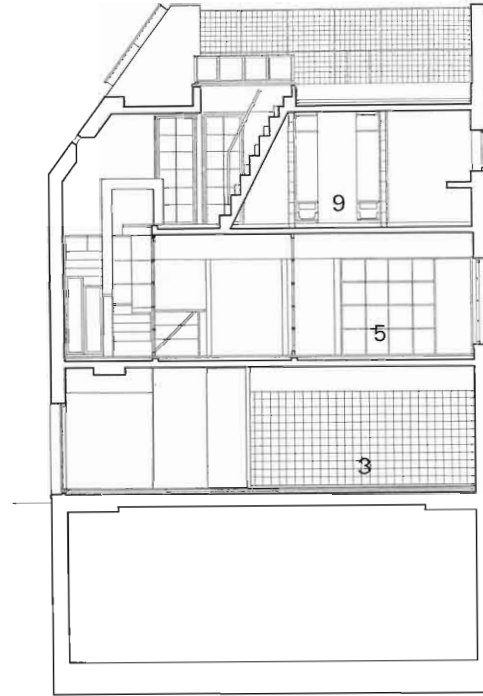
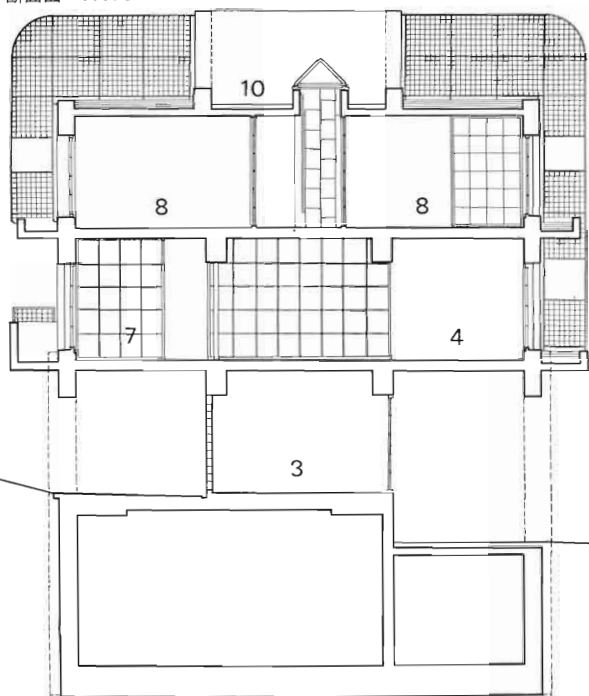
3階平面図 3rd floor plan



屋根伏図 roof plan



断面図 section



建築概要

制作・著作：ハードウェア
 設計発注・監理：黒川哲郎・吉川和博
 構造：浜宇津構造設計室 浜宇津正
 設備：脇設備設計事務所 脇乾一郎
 床暖房：サンスイエンジニアリング
 家具：岩沢晴彦・黒川哲郎
 施工：(株)渡部建設 竹沢政盛
 構造規模：RC 地下1階地上3階建
 面積 敷地：130.93㎡
 建築：78.02㎡
 延床：289.91㎡

BF：59.17㎡, 1F：77.20㎡,
 2F：76.78㎡, 3F：76.78㎡